



隠れ豪雪日本一の町・西川町で、 木質バイオマス発電所を利用した ハウス園芸の限界突破にチャレンジ！



町の課題

- ・高齢化の進展、担い手不足による耕作放棄地の増加
- ・隠れ日本一の豪雪地帯で施設園芸を営むには不利な立地条件
- ・森林所有者の高齢化、木材価格低迷を背景にした森林の放置・荒廃化

このプロジェクトのねらい

廃校敷地を活用して、①豊かな森林資源を活用した発電事業の推進、②木質バイオマス発電所から排出される熱・CO₂を活用した次世代型施設園芸による通年型農業の実践により、豪雪地帯におけるクリーンエネルギーによる持続可能な通年型農業のモデルケース構築を目指します。

プロジェクトの取組内容

木質バイオマス発電所及び次世代型園芸施設の整備

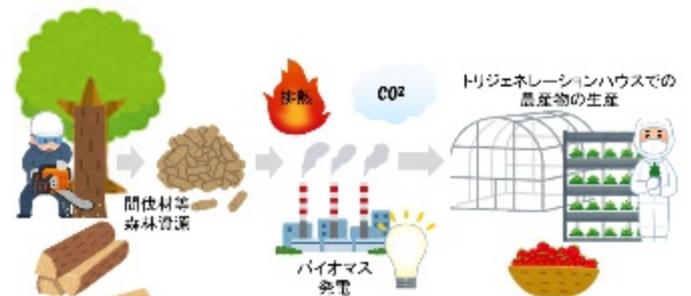
★ 施設の規模[構想]

【木質バイオマス発電所】250kw (50kw × 5基)

【次世代型園芸施設】1,000m² × 5棟

★ 企業メリット

- 政府が掲げる農林水産業CO₂ゼロエミッション化に貢献
- 地域課題を官民連携で解決できる人材の育成
- パートナー企業として西川町の政策への意見具申



当町とともに地域課題解決にチャレンジしていただけるパートナー企業を求めています。

企業の皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします！